

特116

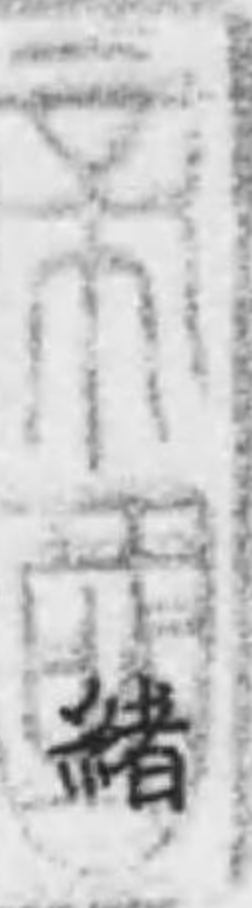
849

四市場達觀祕錄
完



始





言

吾人は日常激繁なる業務に従事し、多方面
 よりの通信を接受査定するに苟もせず以て定
 期界の風雲を觀測して其の趨勢を察知し最も
 敏速に各位に報道するを以て、職の第一位と
 せり、故に一意専心他を顧る力連なく夙夜精
 力を竭し、心血を漙いて人氣の消長を探り、
 或は要路の知己より秘密を窺い、急速秘信を
 以て其中樞の途を講ずるに努むと雖も、豫め
 市場の大勢を達觀し大體の方針を事前に於て

大正
2. 9. 16
日

指示し當局者の参考資料とすは最も必須と
する處なり、然るに今に至るも完全に大勢の
趨向を豫断し斯界に信を成さしむるに足る書
なし是日夜吾人が隔靴搔癢の憾を抱く處なり、
吾人東京毎夕新聞社秘密電報株式部を主裁す
る事已に三年時に自家の所望と一致せざる事
ありて不利はより大なるは莫し、嗚然同社の
金省版を還附し理想の精髓より為れる凡てを
發現せんとす讀者諒焉

大正二年九月

向陽識す

株式界

東洋の花形役者愛橋澤山の太郎公爵が投げ
出した内閣を薩派の大立物たる権兵衛伯が引
受け多年鍛ひ來つた精銳の氣力と才力如き膽
略で大難関を切捲り多数政黨を踏へての大見得
天晴千兩萬兩之大向よりヤンヤの聲まづ以て
大當力大芝居と友つたが我が株式界は大崩落
大悲觀に誘はれた夫も其苦花々しい桂公の財

政政策がジミ左山債の方針に一變して財政行
政の整理は人の氣魂を腐らしジリジリ金融界
の重石と友りて首でも締められ様な感じが
して未だ友人ぞ計らんや予が天眼通に懸けて
見れば今日財界の悲觀は山本内閣のお蔭でも
あらず實は桂公時代の反響であつて此の運氣
を穩しく持續して行くと則ち再び花咲く春陽
の好時期に向ふ下地である然すれば今日の悲
觀は實は樂觀の種蒔で丁度權兵衛伯爵が其の
任に當らしめやつたのも不思議の奇縁ぢや決し

て、驚き歎く場合ではない早くとこぼし
た後には雨もあり風もあり聽て風風き雨收ま
つて青天白日の好日和となる例に漏れず財界
の嵐雲も時に晴曇相半し或は疾風猛雨の大荒
れもある近來の経過が即ち大嵐の時節で我が
財界に切開療治を施したのと同様である
水の出端の若氣に任せ後先見ずか派手く
しく遊んだ跡はマレ首が廻りぬ腰が立たぬの
と大疲れに疲れ込むで仆れて仕舞ふ様な力の
其所で大手術をして禍根病根を退治する為に

は切開の荒療治を加へねばならぬ
頻年底止する所なく膨脹せる政費國費はい
つゝ大決断を以て整理の斧を下さなければ友
らぬ民力の休養に或税の必要は疾うから唱へ
られて居ても借断然と遣つ付けざる勇士は無か
つた茲に山本伯軍人の出を以て快刀乱麻を斬
るの意氣込で多年鬱積した大腫物を切開した
かであるから財界の萎縮も物價の低落も當然
の結果であるこれに頼當り成行で恣く成果で
ないでは左りぬ世止の約束である此の約束が

即ち時節到来或る動機によつて色目いたんが
目下の状態也
其所で氣候が夏から秋になりやがて冬にな
る様に極つた貿易の好調も例に外れず本半季
には輸出超過となる順序なれば仮令支那問題
や巴爾幹問題や墨米衝突があつたつて夫は大
した影響は來ぬ併しまだ支那の始末もつ
かぬ列強の準備政策も確立しない様だから東
亜の黄金時代は前途遠遠だ
我國の懸案たる行政財政の整理としてはまだ完

結に近づいたのでは無い頗る難産の最中であ
るお刺に舊創未だ癒えず景氣回復も單に曙光
を認めたかネといふ計り未だ其の恩恵には浴
せぬのである諒闇が明けたからつて米が農作
だからつて直に景氣が立直つて事業が勃興す
るものでもない先も角も本半季は向ふ遙に霞
める花の山を見當てに雨上りカジトく道を
拾い歩きをして居る様なものであるされば事
業界の全盛時代に臨むのはズツと向ふのこ
とで本半季間は其の前景氣丈に止まる其の前景

氣が即ち株式市場には花と見え實と見えて赫
灼たる光明を放つのである悪いくくと去ふの
もモ一暫らくだが供にまだ金の茶釜を据ゑる
までもはちつと間がある筈ぢや

期米界

米は一年草だけに一年一年に豊凶の極印が
ついて行くから市場の人氣も一年の作柄によ
つて動く昨年も二百十日が安穩であつたから

先づ豊年であらうと思ふと次ぎには大暴風がある夫が魚事に済めば蟲害が起るなど兎角苦情の出たがるも力であるが例の切閑療治の結果では頓當に行つて米價の低落を覺悟せねば友らぬ農家の収入減購買力の減殺は當然来るべき苦たか却て米價の前途に就ては容易に低落せぬ理屈がある即ち入口の増加、米食者の激増、生活程度の向上、米作力役者の減少、農政の弛廢等は確かに其原因の内に数へらるゝ國家經濟の大問題にさるゝ、米作力の消長が其

の實閉却せられて居る力で農家の智識は一向に擴張されぬ先祖傳來の百姓根性狭量なる水呑氣質を脱化せぬので一年一年産米の品質も上らぬ生産の割合も増加せぬ外米輸入によつて不足を補ふて居るからいつ迄経つたからとて米價の低落は夢想されぬ凶年は猶更のこと豊年ぢやとて米價の騰貴を念し資金の流融まで一て賣惜買持に餘念ない農家の思惑が近年殊の外流行して居る担し是も先づ資産ある農家のこととて下々小作の百姓は早敷や水害や種々に

氣を揉み通してやつと仕合な出来秋小なると
又虫害ぢや肥料代の支拂ぢやと生活費の膨脹
やら租税の誅求やらで内外から責められる一
朝收穫皆無くてもいへば忽地其の土地にも居
溜りぬ悲惨な宿友となり親子兄弟離れく
日傭人足と成下かるのである斯様に文明の榮
光を被る一面には祖先傳來の資産を失ひ雨露
を凌ぎ住居さへ持たぬ貧乏に陥る同胞さへ歎
からぬ世の中となつた是も時勢に伴はぬ智識
の不足とは言へ勸農事業の弛廢は争はれぬ事

資で最も寒心に堪へぬ一つである

却説米作の豊凶豫想は直ちに外米輸入の思
惑となり賣惜となり商人又は鴉的農家の算盤
にのみ米價は左右せられて根本の産業者なる
米作者は何等の主義も方針もなく祖先の遺法
を株守し天候任せの力役一方で一年草の植付
や草取に傷心して居るから米價が上れば天か
ら雨が降つた様に思つて多少の愁眉は開いて
も其の割に農民の富を増して新田の開拓や米
種の改良や産米の増加が著しからぬのであらう

之に及して生活程度は交通の便利開ける方面
から捲土重来の勢ひで押寄せて来る麥飯や稗
飯が忌になつて米食の輩が多く友なる木綿物が
肩に重くなつて納交りが着たくなる汽車にも
乗りたし電車にも乗りたい自動車にも飛行機
にも乗つて見ねば馬鹿にされる世の中ぢやも
か萬事金の要ることばっかり是ぢや破産者の
相踵いで山村水郭往時の泰平は地を拂つて無
く友なる計りだ

人口は年々に増す米は其の割に増さぬ年々

豊凶が定らぬ收穫の豫想は出来ぬ外米の輸入
は増す計りこくなことでは寧ろ米作の退歩で
はあるいか

やがて米も石三十五六圓の相場は遠い先で
もあるまい今年の仕事柄がよき豊年にしる其の
實收穫の精確なことは本半季の末ならでは判
らぬ夫迄は盲探りに高低を仮設して居るのだ
から先づ以て九月以後は天候虫害実收見込百
米在高外米事情などの時々カ發表により或は
安く或は高く其所へ金融事情が手傳つてソレ

騰貴ソレ崩落と相場面に頭は来るうである
が今年の出末秋こそは決して大悲观すべきで
は友い業より大豊作友ど、去ふ事は出来ぬが
天運循環の理から推しても中以上位の處で人
為の上煽だつて大したものでなく世上の大勢
で若干月間安直を現す運命を持つて居る

株式の大勢をトす

歐洲の不景氣を傳へては歐洲向商品の仕入

は萎微する支那動乱の飛沫を受けては支那貿
易を主とする事業家は勢ひ其の影響を蒙むる
況や内地財界の不振を興業的諸會社の大鬱
き補助金削減に狼狽せる汽船會社金利列上に
頭痛鉢巻の企業家各々特色を有すれば夫れ大
け特殊の事情はあるが大體萬人が萬人已に株
式の底入を確信して居る今日である機會がに
あらば株式は騰貴するもカと信じられて居る
それには違ひないだが前にも述べた通り今は切
開大干術の場合である小刀細工を廢して自然

の癒着を待つて居る場合である容易に景気が
挽回するやうになれば大手術の功驗は薄いも
のと覺悟せねば友らぬ所謂喉元過れば熱さ忘
るゝ様な辛抱氣のない事では病根の絶ゆるこ
とは無いのであるがそこが識者はかりの世で
はなし多勢大擧の力よほ鐵の門も押潰される
場合がある底値々々と何となく下け溢りに支
へられて居る人氣の熱火が一朝導火線に接觸
しよともか友ら夫こそ譯なしに神輿が揚る例
はいくらもある本當の財政の整理を終り身代

の持直しを見るは早くて二三年の後を待たね
ばならぬが兎角先走りたがる相場の事ゆゑ本
半季間に總じて騰貴の勢があることは疑ふま
でもない勿論一昂一低波瀾があつて好材料が
出て来て鰻上りに上る不暴騰暴落の凄味を交
へるかは其時其場合の形勢にあることは去ふ
迄も無き處なり

好況は何月歟

左様サまづ政府が財政整理の方針を確定し
次年度の豫算作成の基礎を定むる時が人氣の
燒點であらう剩餘金處分案が稍々定つて財政
方針が一致し東亞の政策も確立し外交の機微
が徹底して對支對米の懸念が收まり産業企畫
が施され山本内閣の眞價が認識せらるれば其
の時こそ株式の盛況は燎原の火の如き觀を以
て迎へらるゝであらう
其野で若し内外に事端を生じ折角此の替勢
力の將に勃興せんとする頭を押ゆるに至らば

今半季中には遂に燎原の火はマツチの火又も
及ばぬ慘状を見るであらうが兎も角本年の十
一月初旬より十二月の末までの間に於て一時
全盛らしい雲行を見ることは疑を狭む事は出
來ない

材料の突發

孰れ現はれんとする材料は内地が將た海外
か歐洲も巴爾幹問題の爲に列強の屢々驚動

されし後して財界の動搖未だ鎮靜せず米は墨
と事を構へんとし支那は革命に引續いての内
亂財政の窮乏滿蒙の難問題に懊惱し一も好材
料の來るべしとは思へざるも手近なる支那の
舞臺が意外なる轉換にまつて却て悲喜觀を異
ニスべき一奇變を演出せん歟の見込なきよあ
らず問題は支那自身に解決の力無くして歐米
列強の盡力によりて一時落着せんとするり
ある我國の此間も處して斡旋の勞を執るべき
は無論の事で今半季に於て東洋の平和は暫ら

く回復の狀態となるであらうさうなれば公債
の騰貴金利の低落貿易の旺盛刮目して看るべ
きである此程より我財界の金融状態も次第に
世界的となり世界の金融と關聯して一層鋭敏
に影響するごとく、なるであらう

株式の騰落

今大正二年九月以降三年二月まで六個月
は概ね下記する所か如く實現すべし

東京株式取引所株

久しく不振を嘆たれつゝありし東株は本半
季間に於ても著しき暴騰はなからう元來他の
諸株式に後れず勤くべき性質カ同株が却つて
他株カプロメー夕トとなつて先んじて動揺す
る實力を備へしは根が株式取引所の性質カ然

らしむるのであつて是がまた株式市場では大々的の眞負を背負つて立つて居る

高直の標準

第一高直 百五拾五圓

第二高直 百六拾七圓

安直の標準

第一安直 百参拾五圓

第二安直 百貳拾六圓

運用法 材料の突發を見計し押目買の方針

を執るべきだ併し驚くべき悲觀材料は零々

傳へらるべきも著しき安直なしギリギリと高

直に向ふ徴候見ゆ何處迄も安直狙ひ買つて

よし支那問題愈々悲觀とならば第二安直を豫期して其崩直は買の一點也

東京株式取引所新株

神經過敏の第一なり此株の趨勢にて大概諸

株の動靜を窺ふべしだが此春以来石油全盛の

時代よりは東新株も一時顔色なしであつた本半

季は賣に四分買に六分の利あり高直は戻り賣

安直は押目買にて利喰の機會乏しからず大勢

は依然として押目買を可とす

高直の標準

第一高直 百拾九圓

第二高直 百貳拾八圓

安直の標準

第一安直 百圓

第二安直 九拾二圓

運用法 安直は飽迄買建つべし底直と見たらば充分の決心まで買来すべし安ければ安き程引戻しの高きものと覺悟して買進むべし最早売賣時代に非ず支那と本邦との紛擾も結局大樂觀材料となるから周囲の形勢監察を怠らず相場場の成行に注目し人氣の衰々と氣崩に買仕込べし尤も此機會には急電一閃諸君の手には心勝の方針を傳へらるべし

日本郵船會社株

此株は補助金問題が暗剣殺なり該問題を種にする相場師もあれば落着せぬ内は動揺を免れずだか誰にも大抵は将来が見えそうなるもの巴拿馬開通後は勢い其股を米大陸東海岸にまで延ばし随分と大男になるべき好運兎なり事業も手廣となり矢張國家の補助を承くべき因縁断ち難く政府窮政黨窮との腐れ縁も繋がり補助金も相當にセシメ身代太る計り彼方此方でも大持てにて世襲財産御用株の價値を發揮すべし何といふても株界の重鎮なり

高直の標準

第一高直

百貳拾圓

第二高直 百貳拾八圓

安直の標準

第一安直 百〇七圓

第二安直 百〇參圓

運用法 高低稍不定の時機に臨めども隨分

押目は買ふべし議會の形勢見定めて一層騰

貴あるべし意外噴直あらば賣退方針を執り

多少利喰の後更に買方針に移るべし二重の

利益疑ひなし前途確に大沸騰あらん

富士瓦斯紡績會社株

支那革命に引續き動亂の爲め總ての紡績は

影響を受けたれども大体手堅き株式なり最早

過般の安直は底直と見て賣方の追撃し来れる
處は買に利多し萬々一ポイコツト等にて崩れ
来るとも投退くに及はず

高直の標準

第一高直 八拾參圓

第二高直 九拾圓

安直の標準

第一安直 七拾貳圓

第二安直 六拾五圓

運用法 第二安直は非常なる問題の發生せ

ざる限りは實現せざるべし因て第一安直を

下廻らば至急質問券を以て諮問し大局の指

示を求めらるべし

鐘ヶ淵紡績會社株

營業の堅實は斯界第一なり凡そ買つて損なきは此株に限る今年は大得意の支那内乱の爲め多少餘波を受けたれども由來財産状態に缺陷なく原綿買入も頗る巧者にて商機を見ることと熟練なり事業浮雲気なく買力一貫にて過ちなし本回カ激落等唯一時的悲觀に過ぎず

高直カ標準

第一高直

百拾貳圓

第二高直

百拾八圓

安直の標準

第一安直

百〇壹圓

第二安直

九拾五圓

運用法 賣物あらば安直に手詰すべし總じて紡績株ハ一寸悲觀人氣なるも此友動は恐るべし第一安直を覺悟して奮然として賣人氣の項合を見定め買建らるべし

東洋汽船會社株

補助金を受くること郵船の如し營業方針は比較にならず近來稍々信用も恢復し世評も漸く良好ならんとせるが周圍の事情に餘義なくされ大膽なる方略を以て急進を敢てするの嫌ありされと不思議に蜚語の巷間に傳へられざ

るは重役の奮闘に見るべき者あるに相違なし
最早往時の東洋汽船會社に非ず當分安心して
押目買より途支し

高直の標準

第一高直 四拾參圓

第二高直 四拾八圓

安直の標準

第一安直 參拾參圓

第二安直 實現せざる見込

東京電燈會社株

本半李間の花形株式に数へらるべき一なり
日電との合併破れ了競争を餘儀なくされ恰も

戦闘の意なき犬がケシ懸けられて咬付くが如
き電燈戦に力瘡を入れ市電も渦中に捲込まれ
三ツ巴になつて釜中に狂ひ廻つて居る末はお
定まりの妥協か合同か孰れもして形式を更
へての中直り今は唯だ反對者の蟲押へと兼合
同を餘義なく承認せしむる準備の狂言中なり
併し料金を下げよより得意は大多数を増し充
分巨利を贏ち得へき大事業となるは明か也一
時は市營説などの為め子被買収の噂も立つべ
し夫でも株式は騰貴一方なるべし押目買肝要
ゆめく賣るべうらず

高直の標準

第一高直 六拾七圓
第二高直 八拾圓

安直の標準

第一安直 五拾四圓
第二安直 五拾壹圓

製糖會社株

茲では塩水港も東洋も臺灣も其他の製糖株も一括として置いて置く二年越不作の泣ッ面も蜂で随分朽面棒を揮った揚句天候の好煩さへ得れば栽培は容易だし製糖だつて極り切つた機械の働き糖價は天下泰平此の位ノンキな株式もないが一朝風の神や河童の御見舞と來

たら最後收穫皆魚の悲惨事を甘受せねばならぬ而し安心せよだ本年は確に樂觀が出来凡ての製糖株は押目買の外かした臺灣糖を代表者として高低を示さば

高直の標準

第一高直 七拾五圓
第二高直 八拾貳圓

安直の標準

第一安直 六拾五圓
第二安直 實現なき見込

日本石油會社株

石油株は近頃市場の大立物として大飛躍を

續けたが跡ヒツソリで今は休養的不勢にある
侏し乍ら前途は必ず活躍するから押目買を忘
れてはならぬ

高直の標準

第一高直 百拾七圓

第二高直 百參拾圓

安直の標準

第一安直 百〇圓

第二安直 實現せざる見込に付
第一安直を現せば即時照會を要す

寶田石油會社株

凡て日本石油と大差なし押目買に限る

高直の標準

第一高直 百拾壹圓

第二高直 百貳拾圓

安直の標準

第一安直 九拾五圓

第二安直 第一安直を示さば即時照會を要す

鬼怒川水力電氣會社株

毀譽褒貶十人十色の評はあれど電氣事業は

またく是れからだ伶俐な利光は好い物を捉

へて居る今これノと天機を漏す譯には参ら

ぬが鬼怒川の前途には光明が輝いて居る何れ

機を見て別に詳報を出す時節があらう先づ本

半季間は多少不満足の點があつても将来生長

の後が楽しみだ

高直の標準

第一高直 参拾九圓

第二高直 四拾五圓

安直の標準

第一安直 貳拾八圓

第二安直 貳拾参圓

東京莫斯倫會社株

色々悲觀さされ高直より暴落したるモスリン

株も弗々買の時期が来た即ち前途は左記の高直を實現する價值がある

高直の標準

第一高直 五拾圓

第二高直 六拾圓

安直の標準

第一安直 四拾壹圓

第二安直 實現せば参拾圓台に入るも恐らく参拾八圓以下は無かるべし

日本興業銀行株

政府筋から押付られた波佐見金山の貸付が

へマになつて一時悲觀された同株も充分に整

理の見込も立ち救急の油も廻つて重役の入代

りから先づ當分は慎重々々で押通すであらう

そんなになびクツク程浮雲い様でもない是も本

年は買に妙味があらう

高直の標準

第一高直 六拾八圓

第二高直 七拾參圓

安直の標準

第一安直 五拾八圓

第二安直 實現せざる見込

大阪株式取引所株

理事者が魚能でもあるまい矢張大勢である

うが同株力不振と去はゞ見苦しき暴落で驚く

勿れ明治四十二年以來の安直へ引落した然し

底直も近いから遠からず一陽來復形勢一變せ

ん

高直の標準

第一高直 百拾參圓

第二高直 百貳拾七圓

安直の標準

第一安直 九拾七圓

第二安直 實現せず

前掲各章は大正二年九月より同三年二月ま

で六個月個々渉る高直安直の標準を表示した

のであるが是でも意外の變動に出會し臨時大

波瀾を見ることなしとは保せられず別して此

半季間政治外交、經濟、農業、商業の上、於て株式

市場を撼かすべき材料は、ンダンに潜むて居

る雷さへ米作の豊凶を氣構へて相場の動く季節である既に支那海へは艦艦が浮出したとか焔硝臭い風説さへ東西南北に傳播して居る今日此頃である無碍に安心の出来やう苦は友い株式界の空合は二百十日ところか年か年中天候不穩續けだ暴風雨の真最中に荒海の上に乗出した以上勇氣と決断を頼みにする外はないが夫れでも経験ある先輩の指導は千人力ぢや諸君の手には質問券の便宜もある毎月特電の方法もある活きた羅針盤を扣へての船出ぢや勇しくやらねば不可^ナない

定期米の大勢を下す

一年草の結實時に於て且つ暴風雨の季節に於て未だ海と山とも見据れ付る以際に於て將來の相場を指摘するときは鬼神と雖も為し得ざる所ぢや何んぢや箇ぢやとて神経を悩ます事件は世のあらん限り湧いて來るこれが浮世ぢやか予が井蛙の管見によつて大勢を判断せんこと誠に由々敷大事なり遠莫年來の経験もあり腕の覺えのあればこそ膽太くも舌を動ゐすなれさて相場道の常として兎角機先が肝要ぢや兩を見て傘を持出すことは女小供でも

出来る青空に策の用意が中々六箇敷い要する
にこれには一種の靈感によつて理数の合致を見
究めるのた不意に突發の横槍さへ這入らねば
本半季間期米相場の潮流はまづさつと下の如
しだ

米期 賣買方針

暴落ありと雖も種々の材料を引用され結局
貳拾壹圓内外迄上進する氣勢を為す、而して
此直頃に達せば形勢一轉し暴風雨が被害魚き
に於ては終に拾五圓臺の安直を實現する期あ
るべし、故に賣買為さんとせば徐ろに暴落を
待て買進み高直に於てドテン賣越し同時に其

當時質問券を以て拾五圓台の安直を實現する
か否やを為念確めらるゝを必ず忘るゝ勿ル

米期 各月の高低豫想

九月 九月は餘日少なきを以て電令と支し
更に期間を一ヶ月延長し十月より二
月中を掲載する事とせり
十月 發會後の下押を待ち買中旬一先手詰
して更に崩直を買直すべし
十一月 初旬上進するとも月末へ涉り漸落す
へし

十二月 前月の餘勢を受けて引續き安からん
中旬後及動高ありと雖も又安見込軟

勢は極力買

一月

発會より不味なりと雖も押目は買

にして此月豫定の如く最安直を出さば

愈々買の一貧

二月

押目買を執らるべし

生絲の大勢を示す

定期の八拾圓名に保合ていた間も随分長い

間であつた製米家の不況を啣ち歎聲を漏さぬ

日としては魚かりしが、循環の原則に従ひ英米

市場から一齊に買注文を送つて来たのと、良

呂薄とにより上る々々百圓の大関門も一氣に

突破して百飛四圓ドク迄躍進した、然るに流

石の外商も一寸警戒を始めて午を出さないの

と横濱有数の買方仲買悲觀説起り見るく暴

落した今後カ標準は左記の通りである

一突りあるとし九拾参圓見當迄引落とし暫ら

く不振期を往來して又々形勢一変百拾圓

名に噴出するに至るべし、方針は當分戻

り賣を執り九拾貳参圓見當より徐ろに買

廻るべし

綿絲の大勢如何

支那問題が一から十迄吾財界に悪影響を及

し線米カ如き百二十圓台の安直に落込だ事さ
へある、實に支那程厄介極る國はない併し支那
も今がドン底であるから是以上にゴタ付く事
は魚かろう例へあつては其處は相場なら底固
めと士ふ所であるから將來無妄に對支關係を
悲觀する事は出来まい
大勢としては是又無論好望である従つて先
月の安直は底直と見て差支へ無い而し底直か
ら拾貳圓方と引上た今日の市價は此上參四圓
方も上らば一頻挫を免る事は出来まい

標準位

一、百四拾五圓内外迄上進せば再び暴落を示

し參拾圓台に入るべし是に及し先づ參拾
圓台に崩れば大局は却て良好となり百五
拾圓ド夕迄上進すべし何れにせよ線米は
早晚百五拾圓の市價を奮ふべき時期ある
を豫め記憶し置かれよ
以上は大正二年九月五日後場大引迄に現れ
たる各市價により前途の大勢を算定したる者
也故に天災暴風雨の襲来なく又財政外交等に
大なる異変無きに於ては別項の直教を發現す
るものなり當業者諸君参考に資せられよ

質問券の事

質問券は六通を添付す、何時にても質疑を為さんとする時は返信料電報は貳拾銭郵便は参銭切手を添へ質問さるべし

特別電報の事

特別電報は充分の見込確立せし時に限り發電子見込確立せざる時は却請求あるとも發電せず是商機は急ぐべき者に非ざるが故也
特別電報の種類即ち株式、期米の種類を未だ御申出魚き人あり此際大至急御申出を要す

四市場達觀録 畢

大正二年九月六日印刷
大正二年九月拾日發行

編輯者

時 田 向 陽

東京市京橋區築地二丁目十九番地

發行者

時 田 尚 夫

東京市京橋區築地二丁目十九番地

印刷所

東京之市場社

不許複製

254
168

終

